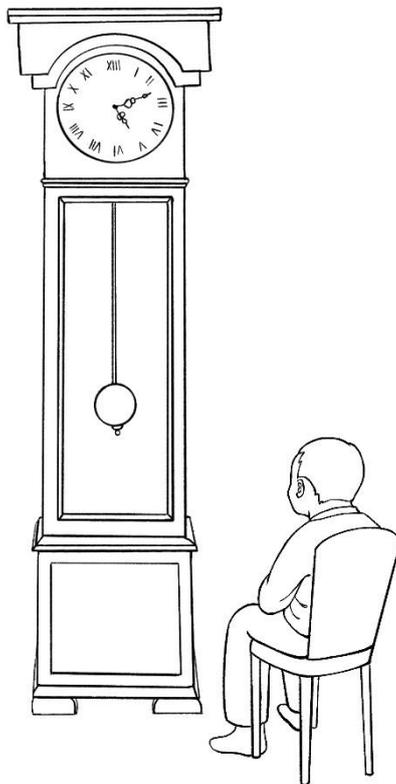


めいきよく  
名曲シリーズ：ある男と時計の物語



Sasaki Akino

(Drawn by Akino SASAKI)

これは、ある男と時計の物語です。



その男の前には、大きな時計がありました。

とても大きな時計で、棚に置くにはちょっと大きすぎました。ですから、床の

うえ ちよくせつ お  
上に直接置かれていました。それでも、時間を確認したいとき、ほとんどの人  
は時計を見上げなければなりません。それくらい大きな時計でした。

おとこ  
男は、この大きな時計をととても気に入っていました。なぜなら、その時計は  
おとこ う ひ あさ りょうしん か  
男が生まれた日の朝に、両親が買ってきたものだからです。つまり、今からち  
ようど 90年前に、この時計が男の家に来てきたこととなります。

いま  
今、90歳の男は時計の前に立っています。時計を見つめていると、いろいろ  
むかし おも で おとこ あたま なか う き  
な昔の思い出が男の頭の中に浮かんでは消えていきます。まだ子供だったこ  
ろ、男の目から見た時計は、今よりも、もっと大きく見えました。背の高い青年  
に成長したあとでも、自分よりも高い時計は、男の自慢の時計でした。勉強  
やスポーツで失敗して、自信を失いそうになったとき、男はいつもこの時計の  
ことを思い出し、心をなぐさめました。

そして、あの日のこと、そう、人生で一番幸せだったあの日のことも思い出  
します。それはずっと好きだった人と結婚することができた日です。

きょうかい けっこんしき お  
教会で結婚式を終えたあと、男は自分の妻となった女の手を取って、この  
いえ もど  
家に戻ってきました。ドアを開けて中に入ったとき、時計は鐘をちょうど 24回  
な  
鳴らしました。それは二人にとって、一番の祝福となりました。

あの日からもう数十年。妻と一緒に作り上げた暖かい家庭は、子どもが増え

てにぎやかになり、<sup>いま</sup>今では<sup>まご</sup>孫もいます。しかし、<sup>おとこ</sup>男の<sup>となり</sup>隣には<sup>つま</sup>妻の<sup>すがた</sup>姿はありません。

<sup>いま</sup>今、この<sup>ひろ</sup>広い家で、<sup>いへ</sup>男は<sup>おとこ</sup>静かに<sup>しず</sup>時計を<sup>とけい</sup>見つめています。<sup>み</sup>男は<sup>おとこ</sup>ふと、この<sup>とけい</sup>時計が<sup>じぶん</sup>自分にとって<sup>もつと</sup>最も<sup>ちゅうじつ</sup>忠実な<sup>ぶか</sup>部下だったことに<sup>き</sup>気がつきます。<sup>まいにちやす</sup>毎日休まず<sup>はたら</sup>働き<sup>つづ</sup>続け、<sup>もんくひと</sup>文句一つ<sup>い</sup>言いません。<sup>おとこ</sup>男がこの<sup>とけい</sup>時計にして<sup>やら</sup>やらなければならないことは<sup>ひとつ</sup>たった一つ、<sup>しゅう</sup>週に<sup>ど</sup>1度、<sup>まえ</sup>前の<sup>とびら</sup>扉を開けて、<sup>なか</sup>中にある<sup>まわ</sup>ネジを回してやることだけです。それだけで、この<sup>とけい</sup>時計はずっと<sup>やす</sup>休まずに<sup>はたら</sup>働き<sup>つづ</sup>続けてくれるのです。

とは言っても、この<sup>とけい</sup>時計も<sup>とし</sup>年を取りました。<sup>さいきん</sup>最近では<sup>かね</sup>鐘が<sup>こわ</sup>壊れてしまったのか、<sup>まえ</sup>しばらく<sup>おと</sup>前から<sup>だ</sup>音を出すことはなくなっていました。<sup>いま</sup>今は<sup>しず</sup>静かで、<sup>おお</sup>大きな<sup>とけい</sup>時計です。

<sup>おとこ</sup>男は<sup>とけい</sup>時計を<sup>み</sup>見つめながら、<sup>ちい</sup>小さな<sup>こえ</sup>声で言いました。「ありがとう・・・。」

それが、<sup>おとこ</sup>男にとって<sup>じんせい</sup>人生の<sup>さいご</sup>最後の<sup>ことば</sup>言葉になりました。その<sup>ひ</sup>日の<sup>よるおそ</sup>夜遅く、<sup>おとこ</sup>男は<sup>しず</sup>静かに<sup>いき</sup>息を<sup>ひき</sup>ひきました。とても<sup>しず</sup>静かな<sup>さいご</sup>最期でした。でも、<sup>おな</sup>同じ<sup>いえ</sup>家に<sup>す</sup>住む<sup>かぞく</sup>家族、<sup>むすこふうふ</sup>息子夫婦や<sup>まご</sup>孫たちは<sup>き</sup>はっきり<sup>とけい</sup>聞き<sup>かね</sup>ました。時計の<sup>まよなか</sup>鐘が<sup>いっかい</sup>真夜中に<sup>な</sup>一回だけ鳴ったのです。それまで<sup>こわ</sup>壊れて<sup>な</sup>しまっ<sup>かね</sup>て<sup>いっかい</sup>鳴ら<sup>な</sup>なかった鐘が、<sup>いっかい</sup>たった一回だけ、<sup>な</sup>鳴ったのです。

その<sup>かね</sup>鐘の<sup>おと</sup>音を<sup>き</sup>聞いた<sup>まご</sup>孫は<sup>おも</sup>思いました。

「ああ、<sup>だいす</sup>大好き<sup>ほんとう</sup>だった<sup>たびだ</sup>おじいさんは、<sup>あ</sup>本当に<sup>あ</sup>旅立ってしまったんだ。もう<sup>あ</sup>会えなくなってしまうんだ。」

その日から、時計は動きを止めました。そして、二度と動くことはありませんでした。



これは “Grandfather's Clock” というアメリカの有名な歌の物語です。日本でも「大きな古時計」というタイトルで大人から子供にまで親しまれている、人気のある歌です。興味があれば、ぜひこの素敵な歌をインターネットで探して、聴いてみてください。

(1297字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.